大山田西小学校だより

虹のかけはし

令和８年９月４日　第１３号

https://kuwana.schoolweb.ne.jp/24020018

学校教育目標

心豊かで　ともに高め合う
元気な子どもの育成

・自ら考え、ともに学び合える子
・自分も友だちも大切にする子
・達成感・充実感を持って生活する子
・思いやりを持って、明るく元気に遊ぶ子

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果から

４月に６年生を対象として実施された「全国学力・学習状況調査」の結果がこの夏に出ましたのでお知らせします。実施教科は国語と算数です。大山田西小学校は国語については平均正答率が、国および三重県の平均を上回りましたが、算数については下回りました。

今回の対象は６年生でしたが、「学校の課題」として捉え、全職員で「強みと弱み」を共有し、課題改善の具体的な方策をもって今後の授業に活かしていきたいと思います。

以下に今回の結果についての概要をお知らせします。

【国語】

一定の成果として認められる内容

〇知識・技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）
・話や文章の種類とその特徴について理解することができる

〇知識・技能（情報の扱い方に関する事項）
・考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる

〇思考・判断・表現（書くこと）
・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる

＜考察＞

筆者の経験や心の動きについて、筆者なりのものの見方や感じ方で書かれていると捉えることができている。また、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えるとともに、引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていた。上記のことは、これまで文章読解力の定着に意図して取り組んできたことと、「自分の言葉で書く活動」の成果が表れていると考える。今後の学習においても、文章の読み取りを丁寧に行い、段落ごとに内容の整理を行い、その過程でのペア学習やグループトークで児童自身が理解・納得できるよう授業に取り組んでいきたい。

課題として考えられる内容

S-P表からも学校全体として「重点的に指導すべきだと考えられる問題」

〇思考・判断・表現（話すこと・聞くこと）
・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確なるよう話の構成を考えることができる
・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる

〇思考・判断・表現（読むこと）
・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる

＜考察＞
本文に書かれている内容を理解し、複数の条件を満たす選択肢を適切に選択することに課題が見られた。また、作文の問題では、本文から「言葉や文を取り上げて書くこと」「読んで考えたことを書くこと」「自分の経験を書くこと」という条件をすべて満たした作文に課題が見られた。
授業において、「文章を正しく読み取る」「登場人物の意図を整理する」といったことを丁寧に確認するような場面の設定が必要である。ワークシートの活用や、ペア・グループ学習での「対話」活動の場で上記の課題が解決していけるよう授業改善を行う必要がある。

【算数】

一定の成果として認められる内容

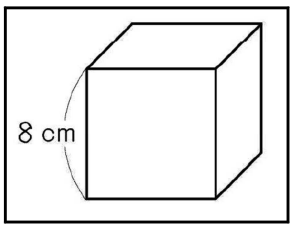
〇知識・技能（数と計算）
・数を四捨五入して、概数で表すことができる
〇知識・技能（数と計算・測定）
・示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができる
〇知識・技能（データの活用）
・帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができる

＜考察＞
「千の位までの概数にする」という問題について、百の位を四捨五入して適切な概数にすることができていた。また、帯グラフで示された情報を基に、指定された時間を読み取ったり、始まりと終わりのそれぞれのメモリの値に着目し、適切な割合を求めることができた。これは、正答への道筋をイメージしてから数や図表を見て、必要な情報を選択する姿勢（授業スタイル）ができていること、そして、ペア学習やグループトークでの議論によって子どもたちが理解と納得を繰り返しながら学びを深めることができることなどの成果だと思われる。

課題として考えられる内容

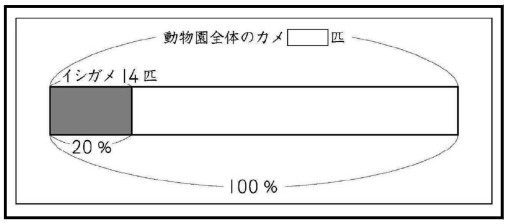
S-P表からも学校全体として「重点的に指導すべきだと考えられる問題」
〇知識・技能（図形）
・立方体の体積の計算による求め方理解している
〇知識・技能（変化と関係）
・百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる
〇知識・技能（データの活用）
・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる
〇思考・判断・表現（変化と関係）
・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から2つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる

＜考察＞
算数については特定の分野において大きな課題が見られた。特に気になったのは以下の3点。
① 1辺が８cmの立方体の体積を求める式を書く



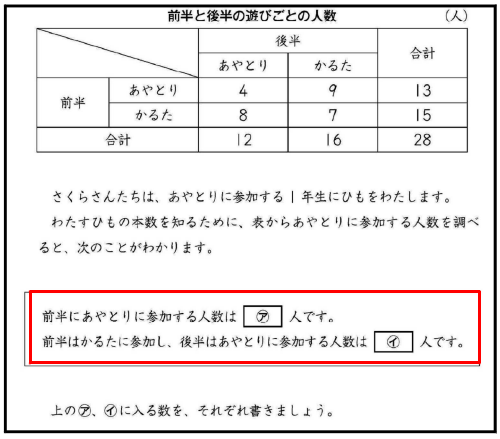
問題は「１辺が８cmの立方体の体積が何㎤かを求める式を書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。」というものだった。立体の体積を求める最も基本的な問題で、「一辺×一辺×一辺」という公式を知っていれば、計算をする必要もなく正答することができるが、正答者数は5割を切っていた。また、計算の答えまで書いている児童が少なからずいた。図形の面積や体積を求める公式の再確認と、問題の求めている「答え方」を理解した上で解答するような課題を授業に取り入れていく必要がある。

②比べられる量と割合から元にする量を求める



イシガメ１４匹が動物園全体のカメの２０％であることから、動物園全体のカメの数を求める問題である。子どもたちが苦手とする単元の一つではあるが、「比べられる量」「元にする量」「割合」の関係性を理解していれば、正答は比較的容易な問題である。「14÷0.2=70 答え70匹」というのが大正解であるが、20%というのは100%の1/5ということから「14×5=70」でも正答することはできる。解答用紙を詳しく見てみると、お手上げ状態の児童が多かったことから、「割合」についての基本的なことの確認と、問題の求めていることを正しく理解し、適切な立式ができるよう再度この問題に取り組み、授業での学びにも取り入れていきたい。

③二次元の表から条件に合う数を読み取る



前半と後半の遊びごとの人数 （人）

		後半 あやとり	後半 かるた	合計
前半	あやとり	4	㋑ 9	13
前半	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する１年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ㋐ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㋑ 人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

二次元の表から条件に合う数を読み取る問題である。算数に限らず、理科や社会においても一次元の表には慣れ親しんでいるが、この表の読み取りはかなり難解だったらしく、㋑については何人かは正答できていたが、㋐については、ほとんど正答できなかった。「問題が何を求めているのか」はシンプルだが、表の読み取りができなかったことが大きな要因である。授業において再度二次元の表を取り扱い、読み取り方について確認したい。

【児童質問紙（生活・学習状況）】

よいところ （「あてはまる」「どちらかというとあてはまる」と回答した割合が高いもの）

・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	９２．９％
・人が困っているときは、進んで助けている	１００％
・人の役に立つ人間になりたいと思う	９２．８％
・学校に行くのは楽しいと思う	８４．７％
・友達関係に満足している	９２．８％
・あなたの学級では人と違う意見を言っても否定されないと思う	９２．９％
・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	９２．９％
・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え	８５．７％

方に気付いたりすることができている	
・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでる	９２．９％
・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	８５．７％
・学級会における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて　取り組んでいる	８５．７％
・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	９２．６％

気になるところ （「どちらかというとあてはまらない」「あてはまらない」と回答した割合が高いもの）

・普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをするか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）	4時間以上 ２１．４％ 2～4時間 ３０．７％
・自分には、よいところがあると思う	２３．５％
・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	２３．５％
・学校に行くのは楽しいと思う	１４．３％
・分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる	２８．８％
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をするか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	1時間以下 ７１．４％
・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか	２８．６％

	国　語		算　数	
	肯定	否定	肯定	否定
勉強が得意	７８．６％	２１．４％	７８．６％	２１．４％
勉強が好き	５７．１％	４２．９％	６４．３％	３５．７％
授業が分かる	８５．７％	１４．３％	７１．４％	２８．６％

児童質問紙では、日常の生活の様子や、他者との関わり、学習に対する考え方等について答えてもらいました。「自分にはよいところがあり、教員にも認められている。学校は楽しいし、友達関係にも満足している。日常生活の中で幸せな気持ちになることがある」と多くの児童が答えています。また、「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と多くの児童が考えていることから、普段の学生活の中でのよい姿がうかがえます。学習活動に対しても前向きな姿勢も見られます。周りの人の考えを尊重し、互いに協力し、話し合いながら課題解決に取り組んでいると考えている児童も多いことも分かりました。

一方で、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という

設問に対して、少なからずの児童が否定的な回答をしたことが気になります。「教員に認められていて授業もわかりやすいと感じていながら、困り事や不安については相談しづらい」という結果を重く受け止めなければならないと思います。また、多くの児童が「学校に行くことは楽しい」と考えていますが、１割強の児童が否定的な回答をしていることも気になります。

教科の学習については興味深い結果となりましたので表にまとめてみました。国語・算数とも「勉強が得意」「授業が分かる」と多くの児童が回答していますが、「好き」と答えた児童はそれほど多くはありませんでした。この結果は学力調査の結果と一定リンクしていると考えるべきだと思います。「学ぶ意欲」あってこその学習ですので、授業のあり方について再度確認し、「子どもが学びの主体」の授業改善を継続して進めていきます。タブレットの活用が進み、多くの児童がインプットとアウトプットに活用できていることがうかがえますが、「読書離れ」が進んでいることを裏付ける結果も出ました。アナログとデジタル双方の強みを理解し、場面に応じて使い分けをしていくよう授業カリキュラムの設定が必要だと感じました。ペアトークやグループワークの活動についてもさらに充実させていきます。教科担任制の利も活かしながらチームで子どもたちの状況把握に努め、職員から「大丈夫？」「困ってない？」などの声かけをしてきます。

【今後の取り組み】（すでに取り組んでいることも含んでいます）

・「誰一人取りこぼさない」ことを常に意識し、きめ細やかな対応に心がけます。
・子どもたちが達成感や自己肯定感、自己有用感を感じられるような学級・学校運営に心がけます。
・授業では学びの見通しを持つために「学びのゴール」を明らかにします。
・「何を学んだのか」「どう学んだのか」「その学びは自分のこれからにどう活きていくのか」といった「学びの自覚」ができるよう「振り返り」活動を行います。
・自他の考えを尊重し、ともに認め合える雰囲気の醸成に努めます。
・ペア学習やグループでの「対話活動」を通して学びが深められるよう、授業を工夫します。
・問題に取り組むときは「何を求めるのか」「答えを出すために必要な情報は何か」「出した答えは何を意味するのか」「これからどう役立つのか」といったことの確認を丁寧に行います。
・教科担任制のメリットを最大限活かし、子どもたちが安心して学べる環境づくりを進めるとともに、教科の系統性を意識できる授業改善を行います。
・読書に親しめるようソフト・ハード面の整備を進めます。
・語彙力を高められるよう、自分の意見を発信する方法を柔軟に選択しつつ、子どもたち同士のコミュニケーションに活かします。
・個別最適な学びができるよう、ＩＣＴ機器の活用および「けテぶれ」学習を進めます。
・「３つの言葉がけ」に家庭や地域とも連携して取り組み、子どもたちの「自己決定の場」を多く設定することで、様々な活動を「自分ごと」にできるよう努めます。
・国内外を問わず、現在の社会状況について、子どもの発達段階に合わせて話題にしていきます。

☆保護者の皆様へ☆

今回の調査は、調査対象児童の学力の全てが把握できるものではありません。また、調査結果を成績表に反映させることもありません。ただ、学力に関して「この調査」でわかってきた「強み」と「弱み」は「全校児童について同様のことが言える」という認識の元、分析結果や今後の授業改善に向けての具体的な取り組みを職員で確認と共有をしました。保護者の皆様におかれましては、日常の家庭

生活において、先にお示しした「課題として考えられる内容」に関わって、子どもの興味・関心を大事にしながら、お家でできることに取り組んでいただけたらと思います。例えば

・会話を単語でのやりとりで済ますのではなく、文章で会話をするようにする。
・新聞記事やネットニュースを話題にして、考えたことについて会話をする。
・「勘違いしてるかも？」と思われる発言があったときに、ただそれを正すのではなく、勘違いに自分で気づけるよう会話を工夫する。
・新聞やチラシ、パンフレットなどからわかることを話し合う機会をつくる。
・家庭生活の中で、子どもに自己決定させる機会をつくる。



・「本物のよさ」を体験できる活動をさせる。
・宿題を「している」か「していない」かの確認ではなく、宿題の内容を確認し、困っていれば適切なアドバイスをする。

※お忙しい毎日だとは思いますが、できる範囲で取り組んでいただけるとありがたいです。

【個人的な感想】

全国学力・学習状況調査の結果を個人ごとに、あるいは設問ごとに考察していくだけでは十分ではありません。S-P表（※）を詳しく見てみると、誤答であっても実は「当該児童にとって正答が比較的容易だったと考えられる問題」の割合がけっこう高いことがわかります。要するに「問題をよく読まなかった」「こういう問題だと思い込んでいた（勘違いしていた）」といったミスによる誤答が少なからずあったのではないかと推測されます。こういうミスはもったいないです。また、正答率が低い問題の中でも重点的に指導すべき問題の傾向についても明らかになりました。単純に「知識」だけの問題ではなく、設問にいかに正対しているかが大切だと思います。設問について「何が問われているのか」「どんなことに留意して解答しなければならないのか」といったことの丁寧な確認が、どの学年においても必要だと考えます。上記について職員全員で確認し、授業において改善できるよう努めています。お家の方のご協力もどうぞお願いします。

※S-P表：「全国学力・学習状況調査の結果を、学級単位で、縦と横がそれぞれ児童生徒（S:Student）と設問（P:Problem）の正答数の多い順に並べ替えた表の中に、Ｓ曲線とＰ曲線を書き入れたものであり、これを活用することにより、**平均正答率だけでは把握できない、学級全体の課題の傾向や、個々の児童生徒が理解していない可能性が高い設問を見つけ出すことができる**」というものです。

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/09/28/1409621_1.pdf

↑S-P表解説